

2015年6月30日発行

会 報

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部準備会
事務局連絡先 Phone : 080-9495-8566 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長 (候補) : 山下 久吉 事務局長 : 大井 寿彦 会計 : 土屋 国彦 広報 : 齋 強志・加藤 和仁

支部長 (候補) 山下 久吉 挨拶



静岡県支部長候補の山下です。静岡県支部は、日本技術士会統括本部の理事会 (7月10日)、中部本部の役員会 (7月12日) を経て、8月8日に行われる設立記念総会で正式に発足します。より一層皆様のために頑張りたいと考えております。宜しくお願いします。

2015年度 静岡県支部設立準備総会

1. 総会

日時 : 2015年4月18日 (土) 13:30~
会場 : クーポール会館
進行 : 山之上専務理事
開会挨拶 (岡井会長)
議事 (議長 : 山下会長)
(報告 : 山之上専務理事 松本会計理事)
第1号議案 : 2014年度事業報告
第2号議案 : 2014年度決算報告
第3号議案 : 賛助会員と名誉会員なら
びに歴代会長への感謝状
と記念品贈呈
第4号議案 : 2015年度事業計画
第5号議案 : 2015年度収支予算

2. 記念講演

「理工系プロフェッショナル人材の育成と
技術士の役割」
講師 : 静岡理科大学 学長
野口 博氏 (工学博士)

3. 懇親会



第1号議案 2014年度事業報告

1. 会員の状況

(1) 会員数の変化 (118名→108名)

※技術士協会の最終会員数です。

2014年3月末個人会員：108名

賛助会員：10社

2015年3月末個人会員：99名

賛助会員：9社

(2) 入会・復帰者、退会者

個人会員入会者 (3名)

休会からの復帰者 (0名)

個人会員退会者 (12名)

賛助会員入会 (なし)

賛助会員退会 (1社)

2. 活動状況

(1) 2014年度定時総会 4月19日開催

記念講演

「雷現象と雷害対策の現状」

講師：元静岡大学客員教授

横山 茂 氏

(2) 例会 計4回開催

(3) 理事会等の会議

理事会 (8回)

(4) 地区ブロック活動

東部、中部、西部 各1回開催

(5) 会報発行 4回 (第146号～第149号)

(6) 受託等の事業

①静岡県建設部農地保全室・農地整備室から電気関係技術士事務所の推薦依頼 (受託実績 計20件)

②静岡商工会議所事業引継支援センターから3件の評価業務

③静岡県建設技術管理センターより設技術エキスパートにおけるアドバイザーとして当協会に登録依頼

④静岡県産業振興財団より連携協定案を

検討。

(7) 公益社団法人日本技術士会中部地域本部との連携・交流

静岡県技術士会中部地域本部関係役員が出席

(8) その他

①中小企業診断協会との連携

②静岡県日中友好協議会との連携

③静岡理工科大学との交流

④事務所設置について

第2号議案 2014年度決算報告

(1) 一般会計

収入 2,050,937円

支出 2,050,937円

次年度繰越金 247,767円

(2) 基金特別会計

基金の部 2,029,467円

利息の部 0円

(3) 50周年記念事業積立金

総額 700,000円

(4) 会員名簿作成積立金

総額 400,000円

(5) 一般会計監査報告

大井会計監事、五味会計監事

第3号議案 感謝状と記念品贈呈

本年、静岡県技術士協会発足50周年を記念して、永年技術士協会の活動に協力をいただいた、賛助会員、名誉会員、および名誉会員ではないが会長を務めた会員、合わせて法人9社、会員26名について、当技術士協会より感謝状と記念品を贈呈する。

第4号議案 2015年度事業計画

1. 事業推進の方針

日本技術士会静岡県支部としての活動を起動、それを軌道に乗せることを今年の第1目標とする。

まず会員の状況を説明する。県の正会員数(平成27年2月)177名、準会員93名、合計270名。会員が技術士協会時代の2.7倍近く増え、活動の幅が大きくなることを喜びたいし、その効果を伸ばす必要がある。

静岡県在住の日本技術士会会員がすべて静岡県支部会員となったものの、対象会員の連絡先をすべては把握しきれておらず、また県支部独自の会費徴収もできないなど懸念があるが技術士協会時の前年実績を越える活動が出来るよう努力する。

活動の基本としては会員相互の自己研鑽を支援するとともに技術士集団としての存在価値を広く深く社会に認知していただくことに努力すると同時に地域社会に貢献することを目指す。そのため統括本部/中部本部と連携した各種活動を進める。

当県支部においては、中部本部と連携した防災活動の充実、静岡市との「災害協定」を中身のある活動の展開を継続する。また、静岡県中小企業診断士協会との連携、静岡県・静岡商工会議所、さらには民間の機関などからの各種受託事業や小学校高学年の理科支援特別授業への働きかけなどの活動を進めていくものとする。さらに、昨年度に引き続き、中国浙江省対外科学交流中心と当県支部との技術交流等の提案についても今後協力していく。

CPD 会合を活発化するため技術部門単位の交流を深めて講演等の提案をして頂き会員全員に対する CPD 講演会として企画し

ていく。

県支部独自に会費を集めることはできなくなり、日本技術士会に納めて頂いている2万円の年会費のうち支部への頒布金を有効利用するとともに、県独自のCPD活動や受託事業による運営会費を増やす努力をする必要がある。何もしないと実質的に80万円程度の減収に成り当県支部の運営が非常に難しくなる。

現在は設立準備段階であり日本技術士会統括本部の理事会(7月10日)中部本部の役員会(7月12日)を経て正式発足することに成る。実際の活動は年度代わりの4月から始まっているが、正式の設立は8月8日(土)設立総会からとなる。

引継事項でもある専用の事務所設置についても検討する。現在の賛助会員の方には、引き続き協賛会員としてご協力をお願いしたい。県支部の規約案については、本議案書の最終ページに添付してあるが、8月8日の設立総会までには中部本部の承認を得て制定の見込みである。

2. 事業計画

- (1) 設立準備総会 2015年4月18日(土)
- (2) 設立記念総会 2015年8月8日(土)
- (3) 例会の開催予定 4回
- (4) 地域ブロックにおける自主活動
- (5) 役員会の開催
- (6) 受託業務等の推薦
- (7) ホームページ運営
- (8) 会報の発行
年4回、HPに掲載
- (9) 防災・災害復旧支援
- (10) 中国浙江省との技術交流

(1 1) 公益社団法人日本技術士会統括本部ならびに中部本部との連携・交流

2015～16年度静岡県支部の統括本部、中部本部関係役員及び委員(案) ※は委員長を示す。

【統括本部役員】	理事:	岡井政彦
	防災支援委員会	吉田建彦
【中部本部役員】	幹事:	吉田建彦、山下久吉、長嶋滋孔、井辺博光、山之上誠
【委員会委員】	副本部長	山下久吉
	総務委員会	大井寿彦
	企画委員会	長嶋滋孔
	CPD 小委員会	井辺博光*
	修習技術者支援委員会	森一明
	試験委員会	中村央
	広報委員会	五味道隆
	活用促進委員会	山下久吉
	社会貢献委員会	
	(防災支援委員会)	吉田建彦*、山之上誠、仁科憲
(理科支援委員会)	吉田建彦	

(1 2) 2015～16年度静岡県支部の役員および委員会委員(案)

※は委員長を示す。

【役員】	支部長	山下久吉
	副支部長	長嶋滋孔、岡井政彦
	副支部長(事務局長)	大井寿彦
	中部担当幹事	柴田達哉*、山之上誠、關尚彦
	西部担当幹事	井辺博光*、森一明、仁科憲、中村央
	東部担当幹事	山下久吉*、大井寿彦、土屋国彦 齋強志、加藤和仁
	会計幹事	土屋国彦
【委員会委員】	CPD 委員会	井辺博光*、關尚彦、長嶋滋孔、大嶽陽一
	社会貢献委員会	井辺博光*、森一明
	(テクノロジーカフェ)	山之上誠*、吉田建彦
	(理科支援委員会)	吉田建彦*、柴田達哉
	防災委員会	山之上誠*、吉田建彦、近藤衛
	(災害協定研究委員会)	山之上誠*、關尚彦、吉田建彦
	広報委員会	齋強志*、加藤和仁、山下久吉
	事業開発委員会	山之上誠*、柴田達哉、鈴木敏弘
会計監事	五味道隆、松本亨	

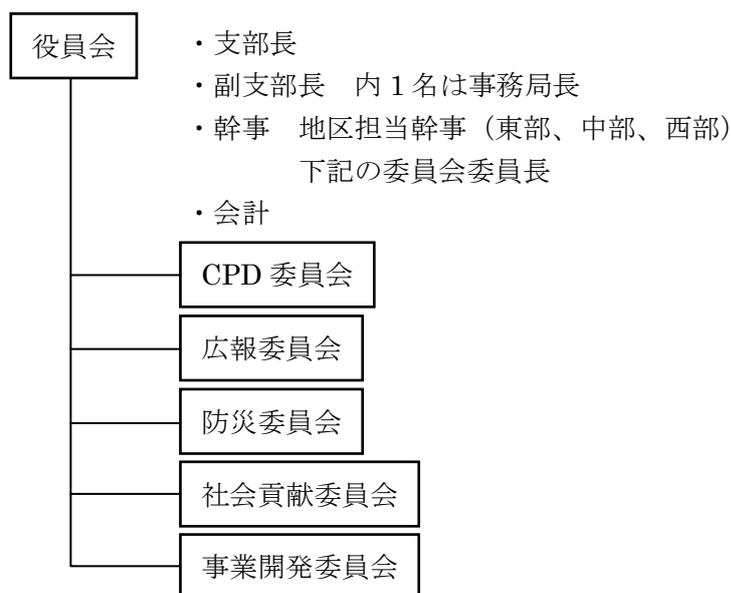
(1 3) 事務所設置の件

事務所を設置するにあたり運営経費の考え方ならびに事務所をどういう使い方をするか、会員へ明確な説明と合議のうえで設置を実現する。

第5号議案 2015年度予算

	収入	支出
(1) 一般会計	1,961,767 円	1,961,767 円
(2) 基金特別会計	2,029,467 円	
(3) 50周年記念事業積立金	700,000 円	700,000 円
(4) 会員名簿作成積立金	400,000 円	

静岡県支部における組織体制、および幹事、委員会の所掌事項



部署名	所掌事項	中部本部との業務上対応
会 計	支部活動に伴う会計管理すべて	
地区担当幹事 (東部、中部、西部)	会員の多様なニーズに応じるために、地区別 CPD 例会等の計画立案。その他地区特有の活動を実施	
CPD 委員会	年間の CPD 例会の計画立案と実施。 CPD 参加票の一元管理と発行	中部研修委員会
広報委員会	会報発行(電子版)、会員 E-メールリストと支部ホームページ管理	中部広報委員会
防災委員会	災害協定研究委員会(静岡市)の事業計画と実施 県の防災支援事業の計画と実施 その他役員会が定める活動計画立案と実施	中部社会貢献委員会
社会貢献委員会	小中学校等における理科特別授業計画立案と実施 テクノロジーカフェの計画立案と実施。 その他役員会が定める活動計画立案と実施	中部社会貢献委員会 - 中部理科支援委員会
事業開発委員会	県・市との各種提携事業の計画立案と事業の推進 部外からの各種技術士業務依頼対応 他団体(日中友好協議会など)との連絡・調整業務 その他役員会が定める活動計画立案と実施	中部社会貢献委員会 - 中部業務開発委員会

理工系プロフェッショナル人材の育成と技術士の役割

記念講演は、静岡理工科大学 野口学長に大学連携による国立大学 53 工学系学部長会議「未来を創る工学 WG」でのご活動内容を中心にご講演いただきました。

地球温暖化防止など工学の社会への応用で技術者の役割は大きく、社会からの要請に応えるため工学は「ものづくり」から「ことづくり」へ転換。これに伴い工学の扱う分野もハード分野からソフト分野、しくみ・企画・発想も含まれるようになってきた。実社会は「正解なき問い」であり大学で学んだことがそのまま企業に役に立つことは少ない。ベーシックな力（論理的思考力、課題解決力）を持ち主体的に活躍できる技術者の養成が大学に求められており、実践的技術者教育の体系化等の取り組みを実施してきた。大学で基礎力養成、企業で実践的応用力養成とすみわけすることも今後の課題とプロフェッショナル

人材の育成について示唆に富んだ内容でした。

また講演を通して、「技術士として地域社会からの信頼を高め、産業の発展並びに人々の幸せな生活の実現のために貢献する技術者として、プロフェッションに徹した活躍を引き続き期待します」と、日本技術士会静岡県支部の技術士の活躍にエールを送って頂きました。



静岡理工科大学 野口学長

防災支援員募集

中部本部では、自然災害発生時に被災者を支援できる防災支援員を募集しております。

昨年 8 月の広島土砂災害に対応し、技術士会中国本部では 9 月から 3 月にかけて会員が被災地に赴き、他の士業（弁護士など）の方々と共に被災者を支援してきました。支援内容は被災者からの相談や困りごとへの対応で、技術的な問題は技術士が引き受けています。ボランティア活動ですので報酬はありませんが交通費は支給されます。

中部地域は久しく大きな自然災害はありませんが、災害は忘れたころにやってきます。災害時の被災者支援に対応できるよう、中部本部でも防災支援員を 2 月から募集しており、静岡県では 6 月末で 15 名の会員が応募登録されています。応募登録方法は中部本部のホームページで確認できます。被災者支援は技術士らしい社会貢献活動です。会員各位に応募登録のご検討をお願いします。

防災委員会：吉田 建彦

事務局変更のお知らせ

役員交代に伴い、事務局が以下のように変わります。ホームページアドレスも変わります。

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部準備会 <http://ipej-shizu.sakura.ne.jp>

〒410-0022 沼津市大岡 2240-16 株式会社 東日内

Phone 080-9495-8566 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp

連絡担当： 大井 寿彦

編集後記

仕事もスポーツも勝敗を分けるのはメンタルの差

「常勝軍団」と呼ばれるプロやアマチュアの強豪チームは、なぜ常に結果を残すことができるのか？彼らの強さの秘密は、無意識のうちに“負けるはずがない”という勝者のメンタルを持っており、そうした「負けるはずがない」といった潜在意識が常に結果を残す「常勝軍団」を構築する。逆にいつも下位に甘んじてしまうチームは、一つのミスがきっかけで、他のチームから追いつけられぬ前に、内なる敵に敗れてしまう。

その敵とは、「こんなにいい状態が続くわけがない」、「いつものようにミスが出てきた」と言うような、自分の勝利を信じられない潜在意識と、自らを過小評価する意識が働くことで、実力を発揮できないまま自ら崩れてしまう。このように、本人も自覚がないままに働く潜在意識は、勝敗を分ける決定的な局面で、行動に大きな影響を及ぼしてしまう。

仕事もスポーツと同様であり、「出来ないはずがない」といった潜在意識を持って仕事をする人と、初めから「出来るはずがない」と言いながら、仕事に向き合う人では勝負にならない。「出来るはずがない」の言葉は、ネガティブな思考に陥り、出来る仕事も遠ざけてしまうことになる。その一方で「出来ないはずがない」と、「根拠のない自信」を潜在意識に植え付けると、出来るはずがない仕事も、出来る仕事に変わってくる。

「出来るはずがない」を、「出来ないはずがない」と言いながら、「根拠のない自信」を潜在意識に植え付けると自ずと道は開けてくる。

何の根拠も無い自信によって、自分自身を自分で一流と置いていけば、視点は現在から未来までを見ようとし、視点の位置も今よりも高い位置で物事を見渡すようになり、その結果として一流のエンジニアに近づくことになる。

我々は技術士である以上、「出来ないはずがない」を言葉にし、常により高い技術の研鑽に努めることが求められていると思われる。

(編集後記：広報担当者)